会　議　録

１　会議名

令和４年度第３回北諏訪区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

地域活性化の方向性について（公開）

３　開催日時

令和４年７月２１日（木）午後６時３０分から午後７時３３分

４　開催場所

上越市立北諏訪地区公民館　集会室

５　傍聴人の数

１人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：　白木朝雄（会長）、高橋和彦（副会長）、大瀧修一、大舘崇雄、澤海雄一、髙橋礼子、中野洋子、松矢　茂、室岡由美子（欠席者２名）

・事務局：　北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

８　発言の内容

【中村センター長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【白木会長】

・挨拶

・会議録の確認：大舘委員、澤海委員に依頼

【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

・資料№.１「北諏訪区における「地域活性化の方向性」の作成について（案）」に基づき

説明

【白木会長】

今後の進め方について、意見を求めるがなし。

では、進め方については、事務局が説明したとおり、進めることとする。

次に、北諏訪区の魅力、個性、次世代に残していきたいものなどについて、皆さんから一人ずつ発言をお願いしたい。

【室岡委員】

北諏訪区の魅力は、風景を見ると管理されている田園地帯が並んでいて、そこを車で進むと商業施設の看板が見えて、田舎ではないし、かと言って都会でもないが、地理的に便利というか、恵まれた地域なのかなと思う。

魅力とはまたちょっと違うかもしれないが、活性化ということ考えると、田もあるが、畑も結構あるので、そこを宅地造成して、皆さんに来ていただいて、人口を増やすと活性化にも繋がるのかなとぼんやり思っているが、それもかなり難しいことである。

特性、個性というと、私自身は３０数年前に宅地開発で新興住宅地に移住してきたが、自分でもやっとこの地域に慣れて、活動などもできるようになった。在来の方は、やはり農業をされている。お勤めの方も多いが、結構田んぼを持っている。新興住宅地に住んでいる私たちは、農業はあまり関係ないので、いい意味か悪い意味か分からないが、考え方も違うなと思っている。

次世代に残していきたいものは、伝統行事などは特別思い当たらない。１月にあるさいの神はどこの町内でも実施している。

【松矢委員】

私も平成元年にこの地に来て３０数年経つ。ここの歴史は詳しくわからないが、昔の諏訪地区があって、北と南に分かれたという歴史があるそうである。

北諏訪に住んで感じることは、特徴があまりない気がする。８つの集落があって、ほとんどがもともと農家主体の集落で、近くにはクリーンセンターがあるということくらいかと思う。強いて言えば、集落の真ん中に飯田川が流れていて、毎年大雨が降ると、洪水、水害でヒヤヒヤしながら生活している地域だと思っている。

また、地区の役員をしていて感じることは、８集落あるが、集落のまとまりがないのではないか、コミュニケーションが少ないのではないかと感じている。集まると反対の集落が出たりして、なかなか一本の方向に向かって動いているようには感じられない。高

校卒業後、外に出る人もいるが、地元に残っていると、私のイメージでは、こういう集落では、青年会や婦人会があって、まとまりが出て、そのまま地区の活動に結びついていくのでは思っていたが、そういうものがなかったので、地域の活性化になっていない部分ではないかという気がする。

今、まちづくり振興会が立ち上がって活動を始めたので、何をしたいかということを協議しながら進めていけば、いい北諏訪になるのではないかと思っている。今回、地域協議会としてどこまでできるか、地域協議会だけでは駄目だと思うので、まちづくり振興会と連携して進めていけばいいのではと思っている。

【中野委員】

私もこちらの出身ではなく、九州の出身なので、北諏訪地区というものが本当にわからなくて、この活動をさせていただいて、徐々にわかり出したかなという感じがする。

私がここに来た時に思ったのは、直江津の祇園祭などの行事の時も、直江津の方は盛り上がっているが、この辺は盛り上がりがなくて、なんだか寂しいなという気持ちであった。

また、伝統行事なども、例えば、大潟のかっぱ祭りのように、昔かっぱがいたという言い伝えでもあればと思ったが、どんな伝統があったのかもわからないので、出せなかった。

少し違う話になるかもしれないが、先日、区内の友人の３０歳代くらいの息子さんが、何かやりたいと考えているということを聞いた。では何が足りないと思うかという話をしたら、やはり若者の集まりが、例えば、何も堅苦しいことがなく、海でビーチバレーをするとか、楽しいことで人を募って、徐々に活動していけば、若者たちも集まるのではないかとのことになった。若者だけの集まりが欲しいということを聞いた。また、若者たちが意見を出した時に、年配の方たちから押さえられる、それは駄目だよ、できないよと言われると、立ち上がった意味がなくなるから残念だという話も聞いたので、その辺も考えたほうがいいのではと思った。

【髙橋礼子委員】

私も北諏訪に来て３０年以上経つが、子どもを育てることや自分の生活が目一杯で、地域に関わるようになったのは、ここ数年ぐらいである。最近になって、自分の近所や周りを見ると、皆さん畑や花壇をとても綺麗にしていらして、綺麗好きな人が多いと感じている。

また、地域を良くしていこうと、いろいろな行事を計画してくださる人が大勢いて、私が行事に参加し始めたのは最近のことなので、そういう人達がいることは、素晴らしいことではないかと思っている。ただ、計画を立ててもなかなか参加される人が少なくて、どうやったら皆さんから参加してもらえるのかをずっと悩んでいる。声かけしたりしていくことがいいのではと思っている。

次世代に残していきたいものは、私もやはりこの地域の伝統行事などはよくわらないし、教えていただければ、皆さんで協力して残していけるのかなと思っている。

【澤海委員】

皆さんが言われたことは、誰でも感じていることだと思う。なぜそうなってしまったのかを、私なりに最近よく考えている。

先ほど松矢委員が言われたように、元は中頸城郡諏訪村だった。６８年前に、直江津町が、市制施行するということで、周りの有田、八千浦、保倉、諏訪村に一緒にならないかと声をかけた。その時に諏訪村は、今の北諏訪区のところは、直江津側についたが、諏訪区として残っているところは高田の方と一緒になり、そこで分村してしまった。もともと人口、世帯数は北諏訪区の方が多いが、役場などの中心部は全て諏訪村の方にあった。そこが、北諏訪区で統一性をなかなか図れなかった最初ではないかと思っている。その後、直江津市と高田市が合併して上越市になり、さらに１３区が合併して今の上越市になった。合併、合併で、半世紀以上、７０年近く経っている。

今、地域協議会では、それぞれの地区の個性を明らかにしながら、市と一緒にまちづくりを進めていきましょうということで協議しているが、我々が生きてきた７０年は、大きなところへの合併、合併で、個性をなくしていきましょうという方向だった。大きな市の中の、同じ政策の中で一緒に市を活性化していきましょうというやり方だったので、それが急に１７年前の合併から、それぞれの個性を持っていきましょうと言われても、我々はなかなかそれについていけないところがあると思う。

なので、この地域を俯瞰してみると、昔はとにかく田園地帯一色だった。だが、工場が出てきたりして兼業農家になり、さらに今は兼業でもなく農業を全部委託しているところが多い。細々と畑だけは続けているが、田んぼをしている人の割合がものすごく少ない。そういったこともあって、住民の間で意思統一が難しくなっていることもあるし、昔は北諏訪区にも商工会があったと思うが、今は周辺の商業集積地に客を取られてしまい、商店もなくなったので商工会もないはずである。

同じように、老人会、婦人会、青年会も消滅し、町内会単位では老人会があるところもあるようだが、北諏訪区としての連合組織は全くなくなっている。そのように統一して地域をまとめるという点では、町内会長連絡協議会などが機能してこなかったからではないかと思っている。

そうした反省が５、６年前からあり、地域支え合い事業を一つの契機とし、地域協議会の自主的審議事項として取り組み、まちづくり振興会を設立された。しかし、振興会が設立されたのは、コロナ禍と全く重なった時期で、なかなか会議や事業がスムーズに行えなかったこともあり、まだ途上だと思っている。

したがって、この地区の特性、個性、魅力を探しながら次世代につなげていこうということで、取りかかったばかりなので、なかなか今は、挙げられない。行政から、あるいは他地域から見ると情けない状況だろうと思うが、我々は我々なりに、真剣に考えていかなければいけないと思っているところである。

【大舘委員】

まず個人的なことにつながるが、寺は地域の中で、それなりの役割を賄ってきたと思う。寺でも、このように住職が集まる会議がある。寺に若い人が来ない、亡くなったら縁を切るなど、そんな話題も出ている。結局は世代間ギャップと、日本の考え方が変わってきたことによると思う。６０代以上の人と我々４０から５０代の人でも、さらに２０代の人は考え方が全く違っていて、日本自体が、集団のことよりも個を優先する時代になってきていると感じる。

話を地域に戻すと、まちづくりは、やはりマンパワーが大事で、数人のグループで実施しても、全体にはなかなか響かない。先ほどの、地域住民にアンケートを取ることは、言ってくれる人もいるかもしれないが、なかなか難しいのではないかと思う。

具体的には、以前松矢委員が言われたと思うが、北諏訪で一つになると言えば、子どもがいる家庭はもちろん、全体でまとまるとしたら、小学校しかないと思う。今年、北諏訪の桜を未来へ残そうという講座の案内が来た。小学校を地域全体で、と考えると、ポイントとすればいろいろ出ると思うが、小さい頃から桜はあったので、自然環境や、次世代に残していきたいものということ、イメージとしては小学校の桜が該当するのではないかと思った。

【高橋副会長】

北諏訪区の魅力ということで、私が５年前に北諏訪小学校のＰＴＡ会長をしていた時

に、直江津東中学校区のＰＴＡで、北諏訪区の魅力を発表するという依頼があり、すごく考えた。当時の教頭先生や校長先生に相談し、資料をお借りした時に、小学校に「さくらの学校」という本があり、やはり北諏訪小学校というと桜ではないかということになり、発表した。なぜさくらの学校と言われるようになったのかという由来を、１００人位の前で発表した。その時から、私は北諏訪区の魅力というと、小学校の桜と思っている。校舎の周りに７５本の桜の木が植えられている。上越市内の学校を全部回ったわけではないが、こんなに桜の木が植えられている学校はない。満開の時は、すごく鮮やかで見事で、魅力は十分あると思う。

横曽根の公園の桜も満開になるとすばらしい。もったいないなというぐらいだ。季節的にも４月の年度始めで、皆さん忙しい時期だが、何か桜をいかしたイベントができればいいなと、以前から思っていた。

北諏訪区の特性や個性について、私は、実は大潟区で５年間生活したことがあるが、大潟区は人々が交流するイベントや行事がすごく多く、毎月のように何かあった。それに付き合うのが忙しいぐらいで、その代わり、人付き合いが途切れない。経験上、大変だけどやる意味があると思う。私がいたのは２２年前だが、今も続いているそうだし、かっぱ祭りも、コロナ禍の影響もあって、今年度はまだ実施するかどうか決まっていないようだが、何回か出させてもらった。

そういう点でみると、北諏訪区は人と人が交流できる地域だと思うので、今コロナ禍で人と人の交流が減っているが、それが収まった時に、また何かできれば、人の交流は自然と生まれてくるのではないかと思う。それを意識して活動していかないと、一部の人の活動と思われてしまうので、そういったきっかけづくりが大事なのではないか。

伝統行事については、私はＴＭＴクラブきたすわに所属しており、毎年８月に「まつりっちｉｎきたすわ」というイベントを実施しており、令和元年が第２３回だった。２３年間続けてきた地域の祭りだが、始まりは、当時、町内の行事がない、青年会がないということで、せめて地域のお祭りを、神様や、神社的なものはないが、祭りという形で始めてみようというのがきっかけだったらしい。私が小学生の頃は、町内の２５３号線から小学校まで、踊りながらずっと歩いていたという記憶があり、その盆踊りの練習も７月ぐらいから定期的にしていて、子どもの頃は行くのがすごく楽しみだった。平成に入ってからだと思うが、そういう行事がなくなっていった。

まつりっちは、最初は子どもたちのみこしに同行したり、ＴＭＴクラブきたすわの主

催だったようだが、それから徐々に地域の方やＰＴＡ関係の方にもご理解いただき、ご協力を得られたそうである。小学校の駐車場で、屋台を出したりして、毎年だいたい２００名から多いときで４００名くらいの方から来ていただいている。

実は、先週、小学校の教頭先生から、来年１５０周年記念なので、ＴＭＴとコラボして、楽しそうなイベントを開催しませんかということでお声がけいただいた。コロナの影響がわからない部分もあるが、こちらもぜひということで、来年は少し特別なことができればと、考えている。やはりまつりっちは、個人的に思い入れも強いので、続けてほしいと思っている。

【白木会長】

北諏訪の自然環境については、昔は今のように田はきちんと圃場整備されてなく、それこそ猫の額のような田が散々としていた。子どもの頃から、自然環境の中でいろいろな植物や生物や小動物を自然と育んでいたという気がしている。

政府の方針で、近代農業化を推進しているので、我々の田のエリアでは、今ＩＴとかＩＣＴとかスマート農業というものを活用して、稲の消毒はドローンで行っている。小さいドローンだが３２０万円ぐらいするそうである。ヘリコプターも、３メートルぐらいのものが７００万円ぐらいするそうである。それだけ経費がかかってきて、農業も逼迫しているようだが、今、北諏訪区で、すべての町内の皆さんが、政府が推進する多面的機能支払活動を行っている。田の面積によって政府から交付金をいただいているが、その多面的機能支払活動を町内で推進しているがゆえに、すべて共同作業なので、以前より町内の皆さんの繋がりができている。活動の中でビオトープ、エリアの中に植物や生物や鳥類が来るような環境を作るというものがあるが、スペースがないのでなかなか取り組めない。

特性、個性は、皆さんから話していただいたように、一昨年から、まちづくり振興会が立ち上がっているので、これから活発な議論を交えながら、北諏訪の魅力発信、何をどのように北諏訪区の皆さんに発信していくかという、まさにこれがまちづくり振興会の責務だと思っている。皆さんと知恵を合わせながら、このまちづくり振興会がきちんとした形になるまで、応援していかなければ、北諏訪の活性化はないと思っている。

伝統行事は、私も常々ここでお話させていただいているが、北諏訪の歴史的なものや伝統的な行事が薄れてきている。我々が子どもの頃は、盆踊りなど、老若男女問わず、いろいろなイベントの中で参加したものだが、そういうものも今は全くない。伝統行事な

どをもっと掘り起こしていかなければいけないと思っている。先ほども話したが、まちづくり振興会に皆さんで力を貸して、よりよい方向付けができれば、それがベターだと思う。

各委員の発言に対して、意見を求めるがなし。

それでは、今日出された意見について事務局でまとめ、次回以降も地域活性化の方向性を協議していくこととする。

次に、その他について事務局へ説明を求める。

【小川係長】

次回の協議会は、９月上旬の開催を考えている。会長と日程を調整し、決まり次第お知らせしたい。

【白木会長】

委員にその他の意見を求める。

【松矢委員】

資料№.１の今後の進め方について、今日各委員から意見を出してもらって、目標としては１月中に、進めていく事業を決めればよいのか、それとも事業を決めて具体的に動き出していくのか、どういうスケジュールで考えているか教えていただきたい。

【小川係長】

地域活性化の方向性の作成は期限がなく、資料にある時期も目安なので、活性化の方向性を決めて実際に実施していくのは先になる。

【澤海委員】

今、それぞれの地域協議会で、地域の特性や今後どうやって地域を盛り上げていくかということを協議していると思うが、令和５年度に向けて予算を作るには、秋ぐらいまでにまとめていかないと、その地域のことがわからないと思う。皆さんの意見を聞いてもわかるように、北諏訪区においては、それがなかなか難しいのではないか。

高橋副会長が言われたように、北諏訪小学校１５０周年記念の話は、非常に大きい。私も北諏訪区には小学校とクリーンセンターしかないと思っている。それが地域活性化になるのかというと、小学校は教育委員会が管轄しているので、北諏訪区として我々が勝手に学校をどうこうすることはできないし、さくらの学校ということで、どのようにまとめていけば、行政側に認知されるような案になるのか。その方向性のヒントを少しでももらえれば、我々も考えやすいと思うが、何かあるか。

【中村センター長】

答えになるかわからないが、まず、地域の活動としてこれまで地域活動支援事業で支援してきた継続的な活動、例えば花植えやクリーン活動などについては、地道な活動として令和５年度に穴を開けてはいけないと認識している。

また、地域独自の予算は、前々回の協議会で説明させていただいたとおり、令和６年度からの事業実施を目指して検討しているところであるが、現在、地域協議会会長会議を８月下旬の開催で調整している。市としては、地域の活動によって、地域を元気にしていきたいという思いがあるので、どういう形で活動を支援できるかはまだはっきりしないが、会長会議での報告を受けて、地域協議会としてどんなことができるのかを考えていければいいのかと思っている。

【白木会長】

・会議の閉会を宣言

９　問合せ先

自治・市民環境部　自治・地域振興課　北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。